

届け 世界の果てまでも

令和3年4月28日

No. 6

文責 校長 飯久保一男

本通信は通常の週には火曜と金曜に配付していきませんが、祝日や休日がある週は水曜ごろの週1回配付させていただいています。

一昨年で引退しましたが、30年ほど^{ミニバスケットボール}ミニバスのスポーツ少年団の監督をしてきました。学級で例えると関わりが出る場合があり、例えやすいミニバスの話が時々登場します。もちろん、教員経験の方が長いので、その経験からの話のほうが多くなります。



聞く子は育つ

あるミニバスのチームに入団希望の子が来たときの話です。

千葉のミニバスチームの監督と話したときのことで、その監督はとても有名な指導者で、バス指導のDVDも出されています。このチームはクラブチームなので、千葉県内の様々な地区から選手が集まります。指導者も有名で成績も毎年残しているため、うらやましいことに入団希望の子も多いそうです。その監督に入団希望の子が来たときの対応を聞きました。入団希望の子が来ると、その日は練習をさせないで、見学することを指示するそうです。そして、練習の間、集中して練習を見ることができた子は「次からおいで」と仮入団をOKするそうです。途中、おしゃべりをしたり、よそ見をしたり、あくびをしたり…などという子は「他にもいろんなチームがあるからそっちに入ってね」と入団を断るとのことでした。「運動能力を見て決めるのではなく、練習を集中して見聞きできるかどうかで入団の可否を決める」と監督は言っていました。監督曰く「集中してものごとができる子、話が聞ける子は、必ず伸びる」とのことでした。

そこで、今号では「聞く」ことについて考えてみます。



聞くことは主に頭脳の仕事だ。耳ではない。

もし、頭脳が聞くという活動に積極的に参加していなかったらそれは「聞く」ではなく、「聞こえる」と表現すべきだ。

モーティマー・アドラー（アメリカ・哲学者）

この言葉は、聞くための脳の働きを説いています。アドラーに言わせれば、トンチンカンな答えが返ってきたときに、「聞いてたのか？」と尋ねるのではなく、「ノーミソ働いていたのか？」と尋ねるのが正解だということです。実際、子どもたちに「%○&#△¥…いいですか？」と尋ねると、理解をしていないのに反射的に「はい」と返事をする場合があります。「聞いていた」のではなく、脳が働かずに「聞こえていた」といういい例です。

…私も妻から言われたことに生返事をしていて、あとで×××なことがよくあります。

では、聞くための態度はどうしたらいいのでしょうか？話を聞いて、一発で納得したり、視野が開けたりすることもあります。そのための基本となる聞き方を紹介します。

その1 自分が初心者であると思って聞く=初めて聞くつもりで聞く。

今の1年生の話ではありません。

1年生に、算数を教えるとき「ぼくは100まで数えられるよ」「私はたし算ができるよ」「ぼくは九九だって言えるよ」など、授業で学習する前に知っていることを自慢する子がいます。周りは羨望のまなざしで見ることがありますが、それらは学習を始めて少し経つとなんら変わらなくなります。返って、分かっているつもりでいるので素直に聞くことができず、自分勝手ないい加減なやり方を身につけてしまい、修正に時間や手間がかかることも多いのです。



…以前（小学校で外国語を学習しなかった当時）担任した子が、中学の卒業後に私に話をしに来ました。中学校の英語の成績が1年生の始めのころは最高レベルだったのに、2年になると苦手科目になり、3年生になるころには全然分からなくなったという話でした。この子は小学校のときに英語の塾に通い、中学校で学ぶ内容を教わっていました。中学に入って英語の授業が始まると、1年生の1学期レベルのことはもう塾で教わっていたので、家庭学習などしなくても余裕でできたそうです。そこで勘違いし、自分は英語が得意だと思いこんでしまったのです。そうなると授業をなめてしまい、「聞く」態度も変わり、いつの間にか塾にも行かなくなり、結局、英語の授業について行けなくなったということでした。小学生のときから塾に通い、英語を教わったために、「聞く」ことをなめてしまい、それが故に返って分からなくなってしまったということでした。



「そんなことは知っている」「私はもうできる」などと思って話を「聞く」と、指導されてもその内容が入っていきません。たとえ知っていること、できることであったとしても「自分はまだまだ未熟だから（下手だから）話は聞き逃さないようにしましょう。」という心構えがあると、指導された内容が入ります。

未熟である、下手であることの自覚が聞く態度につながります。

その2 疑問・質問を整理して聞く。

「絵のかき方を教えてください。」「リコーダーを教えてください。」と質問されても漠然としていて答えられません。「この部分をもう少し立体的にかきたいのですが、私の絵のどこがおかしいと思いますか？」「リコーダーの低い音のタンギングの仕方を教えてください。」と質問されると指導ができます。

疑問に対して、質問できるピンポイントな何かを整理して聞くことが必要です。

その3 肯定的に前向きに聞く。

私たち教員は人前で話す商売ですので、話す相手が【聞いていない】【聞いている】【聞いて理解している】などは、すぐに分かります。話していて気持ちいいのは、こちらの話にうなずいてくれたり、返事をしてくれたりするような聞き方です。声に出さないまでも「なるほど」とか「へえ〜」といった表情やしぐさで聞いてくれていると話にも熱が入っていきます。話している人が気持ちいいと、そうでない場合よりも、その人からたくさんの情報をもらえることにつながります。ところが、私語をされたり、あくびをされたり、よそ見をされたりしたのでは、話す方も「もういいから早く終わらせてしまえ」となります。つまり、いい情報をもらえるかもしれないのに、自分からそれは要らないという聞き方をしてしまい、損をするのです。

カシコク聞くためには、相手の話を肯定的に前向きに聞くことが大切です。

その4 反発しない。無表情にならない。言い訳をしない。

その3の裏返しです。聞いているのかいないのかわからないような態度では話す方がイヤになります。こちらから質問すると、言い訳が出てきたり、返事もなかったりするのでは「もういいや」となっています。聞く態度はどうあればいいかを考えるべきです。年上の人は人生の先輩です。

謙虚な姿勢は人と付き合う上でとても大切な要素です。

あらゆる人間関係に役だつ提案を、一つあげてくれと言われたら、私は真っ先に「いい聞き手になること」と答えるだろう。

リチャード・カールソン（アメリカ・心理学者）



「寝る子は育つ」とも言われますが、寝過ぎる子は起こしてください。

イークボ

